

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月 山王幼稚園・保育園

1 本園の教育目標・令和7年度の重点

本園の教育目標
感性豊かに個性を発揮し、
明るく元気に遊ぶ子どもの育成

令和7年度の重点
◇『時間・空間・仲間づくり』を意識して、遊びに熱中し、自分らしさを表現する力を伸ばす、コミュニケーション力を高める、健康な心とからだを育むなど、バランスのとれた教育・保育の充実を図りたい。また、園内研究の活性化、安全・安心な環境づくり、保護者や関係機関との連携、そして、運営基盤となる風通しのよい、働きやすい職場づくりを目指す。

2 取組の状況・自己評価・次年度に向けて

重点目標の項目	取組の状況	評価	次年度に向けて
I 教育・保育実践	○好きな遊びに熱中し、自分らしさを素直に表現する力を伸ばす	A	・年間指導計画、園外活動の見直し ・社会性を育む活動の推進 ⇒地域環境(人、もの、こと、施設等)の再発見
	○コミュニケーション力を高める	B	・自園独自の活動の見直し ⇒まる集合・わらべうた・手遊びなどの指導を継続 ・クラス間、学年間の交流活動の工夫
	○健康な心とからだを育む	B	・保護者との連携 ⇒健康管理や発育などの情報共有、相談対応の充実
II 研究	○園内研究の活性化を図るとともにECEQへチャレンジする	A	・園内研究の活性化 ⇒PDCAサイクルを生かした日常実践の蓄積と活用 ⇒園内ECEQコーディネーターの活用
III 安全	○危機管理意識を高め、安全な環境づくりに努める	B	・災害への対応 ⇒保護者への周知と連携(避難方法、避難場所、引き渡しなど) ・ヒアリハット事例の活用と「安全マップ」の見直し
IV 連携	○保護者連携を核として、地域、関係機関との連携を図る	B	・保護者との連携 ⇒年1回以上の面談の実施 ・幼保小連携の推進 ⇒近隣小学校との交流の拡大 ・「架け橋プログラム」の理解と実践
V 運営組織	○働きやすい、風通しのよい職場づくりを推進する	B	・職務分担の明確化と組織づくりの工夫 ・円滑な運営、適切なチーム保育のためのシフトの工夫 ・「報・連・相」の体制づくり
A:よく達成できている B:おおむね達成できている C:成果不十分のため要検討 D:取組から要改善			

3 学校関係者評価委員会からの評価、意見など

I 教育・ 保育 実践	<ul style="list-style-type: none"> ・御山野楽校、きな粉づくり、味噌づくりなどの体験活動を大切にしながら教育目標を具現化しようとしていると感じた。 ・子どもたちにとって魅力的な活動を創り上げようとしている熱意が素晴らしい。 ・日々の保育が発達段階に応じて無理なく行われて充実している。好奇心いっぱい園生活を楽しんでいる子どもたちの姿が見られた。 ・学年の横のつながりと異年齢のたてのつながりを大事にしてたくさん交流してほしいと思う。 ・3つの重点目標のすべてを叶えようと思いついても良くないと感じる。子どもには子どものペースがあるので、そのペースに合わせて必要なサポートをしてあげることが大切だと思う。 ・子どもの負担が先生の負担になってしまうので、一人一人の自分らしさを大切にしてほしい。 ・未満児の子どもたちも先生の近くに集まってしっかりと話を聞く姿勢がよく身に付いていると感じた。 ・各クラスの参観から、一人遊びでもグループ遊びでも、自分らしく遊びに夢中になっている子どもの姿が見られた。みんながそれぞれの遊びを邪魔することなく、お互いを尊重している雰囲気が感じられた。また、過度に関わり過ぎることなく遊びを支援する保育者の姿勢もよかった。
II 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題を設定して、園内研究を推進していることに驚いた。ECEQの取組も含めて、保育者が同一方向を向いて保育の質の向上を目指すことは、若手の育成だけでなく、ベテランを含めた保育の質の向上につながると感じた。 ・クラスごと、子どもたちが丸くなってイスに座り、互いの顔を見ながらお話ができる態勢に驚きと共にとってもよいことだと思った。 ・全国にはいろいろと新しいアイデアの保育の活動があると思うので、やってみたいと思ったことにみんなでチャレンジしていくと保育者のやりがいにもつながると感じる。 ・園内研修、公開保育などを積極的にを行い、職員のスキルの向上に努めていると感じた。
III 安全	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害を想定しての訓練が行われ、いざという時の備えがなされていると感じる。 ・教室の窓が大きく、明るく、よく見えるように設置されていていいことだと思う。 ・防災について、園でのマニュアルの共有、アプリの活用など、子ども、保護者、保育者が安全を確保できるルールづくりが大切である。 ・緊急時の下校体制など子どもの安全面については、学童クラブ等との連携に向けて、それぞれの対応について意見交換が必要だと感じている。
IV 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談の実施は、子どものためにも保護者にとってもぜひ行ってほしい。特に年長さんは、小学校へのスムーズな移行を支援していただけることで、子どもも保護者も安心して過ごすことができ、不安軽減につながると思う。 ・学園を取り巻く地域力は、高齢化、共働きなどで弱くなっていると感じる。その中でも主体的に関わるのは、子どもの保護者でなくてはならないと思う。 ・園と保護者、地域をつなぐ視点から、eメッセージ、ユーチューブ、その他のアプリなど、双方向のやり取りが可能なICTを活用していくことも考えてほしい。 ・「親父の会」「お母さんの会」「おじいちゃん、おばあちゃんの会」もしくは保護者の中から外部講師として募集するのもよいかもしれない。とにかくつながりをもつことが重要であると感じる。小中高との連携など、子どもの将来を見据えるとよいと思う。学園OB・OGに声を掛けてみてはどうだろうか。 ・保幼小「架け橋プログラム」の作成に向けて、川尻小と近隣幼保とで、どのように連携して作成を進めていけばよいか検討していく必要があると考えている。実効性のあるプログラムを作成できればと思う。
V 運営 組織	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有を行い、共通理解を図ろうと努めていることが分かった。 ・どの職員も忙しそうに動き回ってテキパキと仕事をされている様子が分かった。どの職員の方からも明るくあいさつをしていただき気持ちよい対応だった。 ・職員全員での打合せが難しい中、報告・連絡・相談を確かにし、足並みを揃えて保育に向かうための体制づくりを工夫していく必要があると感じた。 ・サラリーや労働時間が短い、福利厚生が充実しているなどは、働きやすい職場と見られがちだが、保育者を目指してその職に就いた人たちは、何が一番求められる職場なのか、というやはり「やりがい」であると思う。それぞれが思い描く活動や保育を語る場をつくってはいかがだろうか。仲間の思いややりがいを互いに知ることは重要なことだと思う。 ・小中学校で進められている多忙化防止対策は、どのようになっているか気になった。小学校現場では、アンケートをとり、職員にとって納得感と実効性のある多忙化防止策の作成を心掛けているが、職員の意識として、多忙感とやりがいのバランスをどのようにとっていくか、難しさを感じている。 ・少子化、保育者のなり手の減少などの状況下において、外部の力をいかに活用するかは、保育者の働き方改革にも一役を担うと感じる。
その他	<p>☆園の自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートは、どの項目も概ね肯定的評価で、園の取組をしっかりと理解していただけており、保護者の協力体制も良好のようで、よい信頼関係ができていると感じた。 ・学校評価、職員自己評価については、課題もあるようだが、保育にやりがいを感じられる働きやすい職場づくりを目指して、チームで取り組むというスタンスを全職員で共有できればよいと思う。 ・園児、職員が多い分、共通理解や情報共有もなかなか苦労が多いだろうと思うが、園運営に関する細かな項目に配慮されたアンケートだと感じた。 ・アンケートの重要性は何かといえば、否定的な意見、思いを集めること。良い評価をいくら集めても改善、改良にはならない。否定的な意見をもらえたことをよしとして取組を工夫してほしい。